

新潟県に災害をもたらした主な気象事例

昭和59（1984）年1月16日から3月31日にかけての大雪、低温、雪崩

強い寒気が繰り返し南下

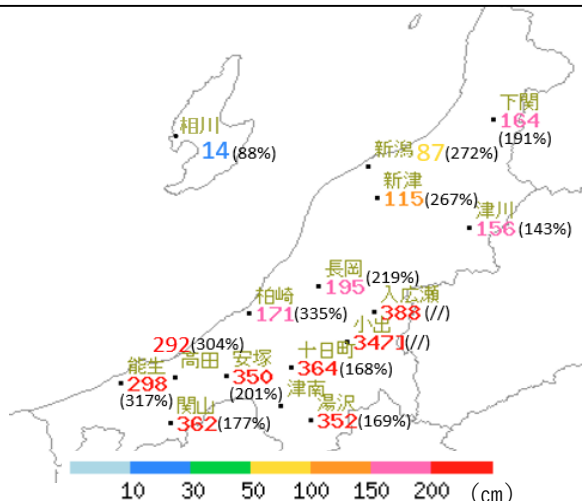
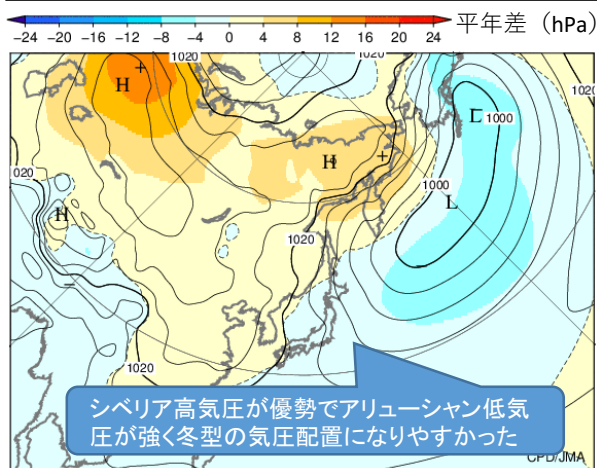
～大雪、雪崩よる多数の人的被害や建物の損壊、交通網の麻痺～

【概要】

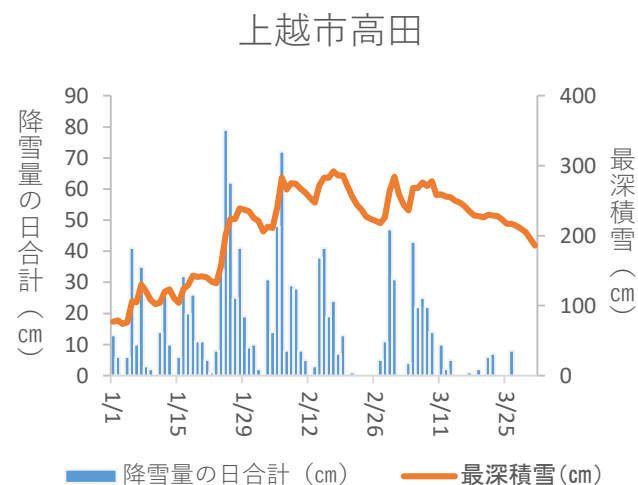
昭和59（1984）年の1月から3月上旬にかけて日本付近は断続的に強い寒気が流れ込み、冬型の気圧配置となる日が多かった。新潟県では寒気が強まるたびに降雪が強まり大雪となった。また寒気の影響で1月から3月の北陸地方の地域平均気温が平年を3度以上下回り、観測史上1位（2022年現在）の低温となった。1月16日から3月31日までの最深積雪は、魚沼市入広瀬で388cm（3月8日）、妙高市関山で362cm（3月1日）、上越市安塚で350cm（3月8日）、上越市高田で292cm（2月17日）、柏崎で171cm（3月8日）を観測した。関山、安塚、柏崎の最深積雪はそれぞれ観測史上第1位（2022年現在）となっている。

この大雪により雪崩が多発し、人的被害や建物・施設の損壊が相次いだ。さらに道路や線路が分断されて何度も交通障害が起こった。大雪による除雪中の事故や交通事故も多く、一連の被害による死者は40名を超えた。また1月は低温による水道管の破裂が各地で続発した。

（被害状況：新潟日報、国立防災科学技術センター雪害実験研究所より）



1984年の最深積雪と年平均比
※平年値は1991-2020年



上越市高田の積雪の深さの推移

1984年1-3月平均海面気圧（等値線）とその平年差（色）※平年値は1991-2020年